未来観光学科

教育の目的及び養成する人材像

未来観光ビジネス学科の教育目的は、本校の教育目的に沿って、専門技能の修得に加え、これからのグローバル社会において必要とされている多様性への柔軟な対応、ならびに観光の諸現象に関する知識と理解、問題発見解決力・創造力、日本語や英語等多言語でのプレゼンテーション・コミュニケーション力をはじめとする汎用的な能力と技能の涵養を図ります。併せて、協調性を保ちつつ独自性を発揮できる自己管理力等、専門士の学位をもって社会で生きる基礎的な力を有し、オンライン化し進化する観光・サービス産業やそれらの分野の発展に貢献することができる独創的人材を養成すること、かつ、地域創生にも観光の視点から取り組める人材を養成することです。

ディプロマ・ポリシー

未来観光ビジネス学科では、本校の称号方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に専門士の称号を授与します。

『知識・理解』

文化・社会・自然の多様性ならびに観光に関する体系的かつ広範な知識を有し、それらを実践的に応用できること。

『汎用的技能』

コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、論理的思考力などの基本的技能を身につけ、観光・サービス産業の場でさまざまな問題の解決に役立てることができること。

『態度・志向性』

現代のグローバル社会の状況に対応できるよう、自己管理力、協調性、社会的責任感をもち、観光・サービス産業の発展に寄与することができること。

カリキュラム・ポリシー

未来観光ビジネス学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

本学科の教育の基礎となる、文化・社会・自然の多様性ならびに観光の諸現象

に関する知識と理解を育成するために、観光学とは何かを総合的に学ぶ「観光まちづくり〈地方創生〉とフィールドワーク」を初年度の必修科目とします。なお、同科目は観光学のみならず、宿泊、交通、テーマパークなどの観光産業論について網羅しており総論として位置付けられます。

同科目と各学年配置の多彩な専門科目とで体系的な履修が可能になっています。具体的には旅行会社やツアーコンダクターを志望する学生は「旅行プランニング」や「海外旅行実務」などを、宿泊業を志望する学生は「宿泊サービスとホテルマネジメント」や「料飲サービスと料飲マネジメント」などの学修を経て、卒業研究に結びつけます。

世界に通用する接遇力の養成には特段の力点を入れており、「ホスピタリティⅠ・Ⅱ」や「各国文化とインバウンドへのおもてなし」などの学修を経て、インバウンドの来館率が高いとされるホテルでのインターンシップで実習を行います。

学生は、それぞれの授業科目を履修し専門性を磨きつつ、幅広い顧客対応を考え、総合的な学修を行うことが要請されます。

「卒業研究」では、教室内の座学に加えて、実際の観光・ツーリズムの現場で学修をし、実践的に調査の技法を学び、経験に基づく知見を育成することを目的として、毎年国内外にわたって複数のテーマで実施します。さらに、本校の特色とすべく、キャンパス所在地の長南町並びに近隣地域の地域観光研究都市の構築を産学協同で取り組むテーマも取り入れます。また、授業科目以外にも企業や団体などでインターンシップを実践し、就職を含むキャリア形成へのプロセスを主体的かつ能動的に促す講座も配置します。

以上をふまえ、未来観光学科では、専門科目の集大成として卒業論文の作成を課します。このように未来観光学科では、観光学全般に及ぶ多様な科目を設置し、総合的な学修ができると共に、ディプロマ・ポリシーで述べた専門士として相応しい力が形成されるように配慮します。

『学修成果の評価方法』

本学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得時間数（単位数）による分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

アドミッション・ポリシー

未来観光ビジネス学科の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、こ

れらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

未来観光ビジネス学科で定めている称号授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材を求めます。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（１）　知識・技能

英語については、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけていること。

国語については、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけていること。

社会については、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から複数の教科を選択し、個々の項目の内容を理解していること。

情報は、高校での「社会と情報」の科目を通して、情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して効果的にコミュニケーションを行うことの知識を有していることが望ましい。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

（２）思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、文系の知識・技能と理系の知識・技能とを総合して応用できること、およびそれらの発信ができることが期待できること。

（３）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好な人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、および失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとすることが期待できること。